

クロレラのプロテインチロシンフォスファターゼ、マトリックスメタロプロテアーゼ、カスパーゼ、サイトカイン遊離、B・T細胞の増殖、ホルボールエステル受容体結合への作用

Journal of Medicinal Food (2004年)に掲載

【研究目的】

クロレラやクロレラ抽出物の持つ様々な薬理効果については、ヒトや実験動物における多くの試験で認められています。それらの作用機序を明らかにすることを目的として、試験を実施しました。

【実験方法】

クロレラ粉末品について各種酵素活性、レセプター結合、細胞からのサイトカイン放出およびB細胞やT細胞の増殖に対する作用を52種のin vitro評価法を用いて検討しました。

【結 果】

本試験で確認された結果に基づき、改善が期待されるクロレラの作用を表1にまとめました。

表1. クロレラの摂取により期待できる作用

抑制作用確認項目	期待できる作用
プロテインチロシンフォスファターゼ CD45	免疫調整作用
プロテインチロシンフォスファターゼ PTP1C	自己免疫疾患での免疫制御
プロテインチロシンフォスファターゼ PTP1B	乳癌, 卵巣癌への作用
プロテインチロシンフォスファターゼ T-細胞	T細胞に対する免疫調整作用
マトリックスメタロプロテアーゼ1, 3, 7, 9	癌, リウマチ, 自己免疫疾患, 歯周炎, 組織潰瘍, アテローム性動脈硬化, 動脈瘤, 心臓病
カスパーゼ3, 6, 7, 8	アルツハイマー, パーキンソン, 脳/心筋虚血
ホルボールエステル	発癌物質の作用抑制

《掲載論文》

掲載誌: Journal of Medicinal Food 7巻2号、2004年

タイトル: *Chlorella* on Activities of Protein Tyrosine Phosphatases, Matrix Metalloproteinases, Caspases, Cytokine Release, B and T Cell Proliferations, and Phorbol Ester Receptor Binding

(クロレラのプロテインチロシンフォスファターゼ、マトリックスメタロプロテアーゼ、カスパーゼ、サイトカイン遊離、B・T細胞の増殖、ホルボールエステル受容体結合への作用)

著者: Fong-Chi Cheng¹⁾, Atsui Lin¹⁾, Jin-Jye Feng¹⁾, 溝口亨²⁾, 竹腰英夫²⁾, 久保田仁志²⁾, 加藤葉子²⁾, 直木洋²⁾

所属: ¹⁾MDS Phaema Services TaiwanLtd., ²⁾(株)サン・クロレラ

この情報は、学術雑誌や学会において発表された内容の掲載であり、商品の販売促進を目的とするものではありません。